

妙智會教団とグローバル化 — 「ありがとうインターナショナル」への改称を中心に—

李 和珍

はじめに

妙智會教団が開教 40 周年を迎えた 1990 年に設立した「ありがとう基金」が、2012 年 12 月 25 日に一般財団法人となり「ありがとうインターナショナル」と改称された。本稿では、「ありがとうインターナショナル」の活動を通して、妙智會教団の社会活動、主に宗教協力活動および国際的活動についての現状と、情報化・グローバル化の社会変化に伴う活動の変化及び関連団体との関わりなどを明らかにする。2012 年 12 月以後の活動については「ありがとうインターナショナル」と、それ以前の活動は「ありがとう基金」の名称を用いるが、名称を変えてからの活動の展開などに変化がもたらされているのかを探る。「ありがとう基金」の活動については、教団の会報「妙智會」の創刊号から 2005 年までの号を中心にまとめた論文¹があるが、その後どのように活動が継続され、新しい展開が見られるのかなどを考察していく。

1. 「ありがとう基金」とは

「ありがとうインターナショナル」との関連を確認する意味で「ありがとう基金」についても簡単に説明していく。どのようなきっかけで設立されたのか、歴史と活動を中心にまとめたのち、その特徴を示す。

妙智會教団は、宮本ミツ（1900～1984、現在は「会主」と称される）が霊友会から分派し、1950 年 10 月 12 日に開教した。本部は東京の代々木、聖地は千葉県山武郡九十九里にあり、全国に 7ヶ所の教会と 1ヶ所の道場のほか 500 を超える支部がある。教えの四本柱は「先祖供養」、「忍善」、「懺悔」、「感謝」である。宮本ミツの死去、3 年後に娘婿の宮本文靖が 2 代目の会長となったが、その 3 年後に、「ありがとう基金」を設立し、国際活動を本格的に展開し始めた。宗教協力にも積極的であった。なお、宮本文靖は、2015 年 3 月 26 日に 97 歳で死去、5 月に教団葬が行われた。宮本文靖は会員に「会長先生」から「大導師さま」と尊称されることになり、現在は息子の宮本恵司が法嗣²として教団のリーダーを務めている。

「ありがとう基金」は、1990 年 3 月 28 日「会主 7 回忌法要」で宮本文靖会長によって新たな「国際平和活動の推進」が発表されたことを受け、同年 10 月 13 日「開教 40 周年のつどい」の場で設立された。教団は「ありがとう基金」設立の原点は、宮本ミツの開教宣言にあるとされている。開教宣言の挨拶のなかでは「妙智會の使命は誰彼の区別なく、平等に慈悲を及ぼし、世界に光明を点じて世界平和に貢献することにあり、そのために私たちは大いなる決定を以って精進努力させて戴く覚悟を持たねばなりません」と発会の意義が明確に表明されている³。また宮本ミツの悲願であった世界平和実現のため、本来の地球の後継者である子どもたちを紛争と悪化する環境などの障害から守り、健全な育成を推進するためのもの

のだということも明らかにされている⁴。

「ありがとう基金」は布施修行の一環であり、基金に対する布施を通じて、次の3つの感謝の心を養うことを目的としている。①会主さまの理想である世界平和を実現させていただくことへの感謝、②仏道修行の実践徳目である布施修行の機会をいただいたことへの感謝、③世界の子どもたちとその国の人々が私たちの真心を喜んで受けてくださることへの感謝⁵である。

「ありがとう基金」から「ありがとうインターナショナル」に至るまでの活動については次節で詳しく紹介するが、もともとの「ありがとう基金」は次の4つの活動方針を持っていた。①支援：子どもの生存・発達のための継続的支援、難民や被災者への緊急支援を行う。②啓発：世界の子どもたちの現状を学び、今後の取り組み方を探る。これによりさらなる啓発を行う。③文化・広報：文化活動や広報活動を通じて、世界の子どもたちを思いやることを開くアピールをしている。④宗教協力：これからの子どものことを考え、世界の宗教者との宗教・宗派をこえた恒久的な協力関係を築く。

妙智會教団が「ありがとう基金」についてまとめた冊子『あまねく慈悲を～「ありがとう基金」の歩みと、タンザニアでのGNRC第4回フォーラム～』（ありがとう基金、2012年10月12日）には、「ありがとう基金」の概要がまとめられている。それを表1に示した。これによってその趣旨が分かる。

<表1> ありがとう基金

設立	1990年10月12日（妙智會開教記念日）
目的	仏教精神に基づき「子ども」という分野から世界平和実現に貢献する。
基本理念	仏教実践徳目である「布施」の修行として、一人ひとりが自発的参加により日常生活の中で無駄やぜいたくを慎み、すべてに感謝して思いやりの心を養う
総裁	宮本文靖
代表	宮本けいし
所在地	〒151-0053 東京都渋谷区代々木3-3-3 妙智會館内
活動の柱	①支援、②啓発、③文化・広報、④宗教協力
国連との関係	2004年2月、国連の経済社会理事会（ECOSOC）の特殊協議資格を取得。 国連登録NGOとして認定
ホームページ	http://www.arigatou-net.or.jp
募金受付先	ゆうちょ銀行 口座名「妙智會ありがとう基金」 口座番号 001407-550721

2. 「ありがとうインターナショナル」の活動

「ありがとうインターナショナル」は、2013年4月1日から本格的に一般財団法人としての活動をスタートした。「ありがとうインターナショナル」は、2013年5月に「ありがとう基金」と同じく東京代々木の教団本部に財団の本部をおいている。海外のジュネーブ、ニューヨーク、ナイロビの3つの事務所と連携を図りながら、さまざまな事業を実施している。役員として4人の理事と1人の監事を置き、彼らを中心に組織が構成された。募金の送金先も1ヶ所から3ヶ所に増やし、妙智會教団の会員のみではなく、一般に向けての募金も呼びかけている。また「ありがとう基金」のホームページも「ありがとうインターナショナル」へ

とリニューアルされ (<https://arigatouinternational.org/jp/>)、リニューアル後は英語、フランス語、スペイン語でも閲覧できるようになった。

一般財団法人になる前の「ありがとう基金」は、1997年から「ありがとう基金だより」(A4サイズ1頁)、2001年～2012年までは「ありがとう基金NEWS」(A4サイズ1頁)を月1回、ありがとう基金事務局広報部で発行し、会員に向けて活動の報告とお知らせをしていた。財団法人になってからは、ありがとうインターナショナル・ニュースレター「ありがとうnews」(A4サイズ8頁)を季刊で年4回発行し、活動の詳しい内容や事業計画、予算、ニュースなどを掲載している⁶。

「ありがとうnews」2013年冬号 vol.2 から2015年夏号 vol.8 までの毎号には、巻頭言「活動を支えている人たちからのメッセージ」コーナーを設け、主に海外地域の海外事務所の理事長、マネージャ、アドバイザーなどによる妙智會教団への感謝や「ありがとうインターナショナル」活動の大切さ、素晴らしさなどを伝えるメッセージが掲載されている。「ありがとうインターナショナル」がグローバル化時代に対応して国際的な活動をし、詳しい情報を発信するようになったことをうかがえる。それはホームページの英語版が日本語版より格段に充実していることに端的に示されている。

また「ありがとうnews」2014年冬号 vol.6 には「ありがとうインターナショナル」のロゴマークが新デザインになったことの記事がある。「新生ありがとうインターナショナルの役割や位置づけを見直し、今後のあるべき姿を明確にすることとなりました」とその意図を説明し、その概要については次号で発表するとしている。変更前の Arigatou International に“All of Children”が加わったロゴで、「私たちの活動はすべて子どもたちのために」ということを全面に押し出していることがわかる⁷。このロゴとともに「ありがとうインターナショナル」ホームページのトップページの下段には動画(英語)「Arigatou Internatitnal-All of Children」も設けている。

「ありがとう基金」の4つの活動方針は、前述のように①支援、②啓発、③文化・広報、④宗教協力であった。その方針を継いだ「ありがとうインターナショナル」の活動は6つに定まった。そのことは「ありがとうnews」2013年秋号 vol.1 の2013年度の事業計画を見るとわかる。その詳しい内容については「ありがとう基金」時代を踏まえて以下にまとめる。

まず、一つ目の支援活動についてであるが、これは妙智會教団の設立以来、もっとも力を入れて継続している活動であり、「ありがとうインターナショナル」はその理念を継承している⁸。具体的な活動として代表的なものは、国内外の様々な団体や、自然災害に対する募金・寄付活動である⁹。妙智會教団は、開教当初から社会奉仕活動として、赤い羽根共同募金活動を毎年10月に行って日本赤十字社を通じて支援金を送っているが、「ありがとう基金」が設立された1990年前後からは国外への援助金・寄付金活動が目立つようになった¹⁰。教団の会報である「妙智會」の記事内容からわかるように多くの国外支援を行っている。世界各国の豪雨災害の復旧支援金や大地震の緊急支金を送ることはむろん、1990年11月からは日本ユニセフ協会を通じてネパールとバングラデシュに給水と衛生プログラム援助を開始し、これを8年間続けた。またネパールには教育普及を支援するため学校建設プロジェクトを進め、1999年3月にはキルティプール市サリアンタン村に小学校を建設した¹¹。

「ありがとう基金」の国外支援の継続の一つの例として「ありがとうnews」2014年冬号 vol.6 には、教育を受けられない子どもたちのための「アジア子ども奨学金への取り組み」

を紹介している。これは2014年5月5日で45周年を迎えた婦人部が1999年から15年間も「アジア子ども奨学金」の支援を続けているということである。バンコクのスラムや、ミャンマーとの国境沿いにある農村部のターク県、北タイのパヤオ県の貧しい地域に住む子どもたちに奨学金支援を行っている。

二つ目の活動は、「子どものための宗教者ネットワーク」(GNRC: Global Network of Religions for Children¹²、以下GNRCと記す)である。これは子どものための活動をしている世界の宗教者と協力し、子どもにふさわしい世界実現に向けて宗教者の立場から貢献するための世界規模の諸宗教ネットワークである。

1997年5月14日の「会長米寿のお祝い」の席で宗教協力の分野における活動としてGNRCの構想が発表された。正式に発足したのは2000年5月15～18日に東京の国立オリンピック記念青少年総合センターにて開催された第1回フォーラムである。「ありがとう基金」事務局内にGNRCの事務局を設置した。GNRCは子どものために活動している宗教者が宗派を超えて結び、宗教者の立場から子どものためのより良い環境づくりを通じて平和実現に向けた価値ある貢献を目指すものである。

主な活動は、①フォーラムを4年に一度開催し、子供の支援を現場で実践している宗教者が集まって啓発するものである。2014年3月の「ありがとうインターナショナル」の理事会で「2014年度事業計画」「2014年度事業予算」などが審議され、以後は5年ごとに開催することに決定した。次回は2017年になる¹³。②グローバルネットワークを形成するために、インターネット等を通して情報交換を行う。2000年の発足以来、南アジア、アラブ諸国、アフリカ、欧州、中南米・カリブ地域に地域ネットワークを立ち上げ、子どもの生活を改善するための活動が続いている。③ワーキンググループを作り、同じ分野・地域で活動する者同士が連携する¹⁴。子どもの権利と福祉に取り組んでいる宗教指導者のグループ、子どものために活動を行う宗教団体、NGO、教育者、ユニセフやユネスコ等の国連機関などが参加している。

厳しい環境にある子どもたちを対象にしているが、具体的にはアジアではネパール、アフリカの子どもたちの支援に力を入れていることが特徴と言える。

現在まで行われたGNRCのフォーラムの概要を表2にまとめた。

またGNRCのホームページを見ると、ユニセフとともに「世界宗教の子ども観」という共同調査を行っていることがわかる。その概要を紹介すると、調査プロジェクトの目的は、個人としての子ども、子どもたち、若者が各宗教の聖典でどのように描かれているか、宗教コミュニティでどのようなケア・指導・待遇を受けているか、また、若者が所属する宗教コミュニティで自分をどのように位置付けているかを評価することである。宗教コミュニティがどのように子どもの権利条約の実施に関わり、貢献できるかを取り扱う情報及びツールと資料を提供しようとするものである。想定される主な最終結果は、とりわけ宗教団体、宗教NGO、ユニセフ各国代表事務所などが使うリソースであり、多数の機関に対するアドボカシーのツールになる予定である。全体的な結果に基づいて、アドボカシーで活用できる情報を提供するマニュアル、特定の課題に関するリーフレット、特定の課題についての話し合いの参考となるアイデアなど複数の成果物を完成させる見込みという¹⁵。

三つ目は、「倫理教育委員会」の子どものための倫理教育の推薦(Ethics Education for Children)である。2002年5月の「国連子ども特別総会」で発表され、2004年5月の

<表 2¹⁶>

< GNRC フォーラム >

	1 回	2 回	3 回	4 回
期間	2000 年 5 月 16 ～ 18 日	2004 年 5 月 17 ～ 19 日	2008 年 5 月 24 ～ 26 日	2012 年 6 月 16 ～ 18 日
場所	東京	スイスのジュネーブ	広島	タンザニアのダル エスサラーム
テーマ	祈りと実行一子供 の未来のために	子どもとの約束	共に生きることを学ぶ—倫 理と実践、新たな希望	貧困をなくし、子 どもたちを豊かに する—啓発、行動、 変革
参加	34 カ国 293 人	68 カ国 359 人以上	63 カ国 353 人	64 カ国 350 人
内容	分科①「武力紛争 のない世界の实现」②「家庭と社 会における子ども たちへの愛情」③ 「発達と平和への 教育の貢献」④「健 全な環境での子 どもの成長」	目的①第 1 回フォーラム以 来、世界各地で貧困撲滅 に向けて GNRC メンバーか ら報告や意見交換、②グ ローバル、地域、国レベル の GNRC の取り組みを継承 するための行動計画の構 築。③子どものための倫理 教育の討議、「倫理教育委 員会」設立の発表 ¹⁷	サブテーマ：貧困「貧困に あえぐ子どもをなくすため の倫理的責任」、暴力「子 どもに対する暴力をなくす ための倫理的責任」、環境 「地球を守るための倫理的 責任」 ¹⁸ 。倫理教育プログラ ム『共に生きることを学ぶ —倫理教育のための異文 化・諸宗教』を配布	課題：「質の悪い統 治」、「戦争と暴力」、 「不均衡な資源の分 配」
備考		「倫理教育委員会」設立	子どものための祈りと行動 の日 (DPAC)	貧困撲滅

GNRC 第 2 回フォーラムで設置された。

最初に諸宗教の倫理教育のための開発に取り組み、ユネスコとユニセフの協力のもと、世界中のさまざま実施試験を経て『共に生きることを学ぶ—倫理教育のための異文化間・諸宗教プログラム』を開発した。この教材は、GNRC が世界規模で推進する倫理教育イニシアチブにおいて初の具体的成果を示すもので、子どもたちへの倫理教育、および諸宗教学習推進を目指した対話や、パートナーシップの提供、そして協調のための国際的リソースセンターであり、活動に携わる方々の絆を深める場としての役割を担っている¹⁹。

強い倫理観を身につけてもらうために、諸宗教と異文化間の学習プロセスを用いたツールで世界の教育者と青年指導者を対象としている。宗教や文化の違う子どもや若者が参加するワークショップを通じて、個人と集団の責任感を奨励し、和解の精神を育てることによって、他者の気持ちを理解し、それについて考え、学んだことを日常生活の課題に適用できるようにすることに役立てようとする²⁰。2013 年時点では、英語、フランス語、スペイン語、日本語、ベルシャ語、アラビア語、クロアチア語、スワヒリ語、セルビア語、ボスニア語、ポルトガル語、ルーマニア語の 12 言語に訳され、世界 30 ヶ国において約 3,000 冊が配布された²¹。教材の指導者養成、子どもたちへのワークショップを展開している²²。英語版公式サイト www.ethicseducationforchildren.org/en/ では英語のほか、スペイン語、フランス語のものも閲覧できる。

「ありがとうインターナショナル」の海外事務局の一つであるスイスのジュネーブ事務所（常駐スタッフ 4 人²³）は 2003 年 2 月に開設され、倫理教育の推進を中心役割として『共に生きることを学ぶ (Learning to Live Together : LTLT)』マニュアルの調整や開発、普及活動に取り組んでいる。

『共に生きることを学ぶ (LTLT)』教材は、次の7つのセクションからなる。すなわち「利用の手引き」、「学習モジュール」、「進歩モジュール」、「アクティビティ」、「資料集」、「わたしたちはこうなりました」、「参考文献」。利用者のために絵や写真、事例など、わかりやすく説明されている。セクション6の「わたしたちはこうなりました」を見ると、この教材とその方法を使った世界各地で行った実践例が記載されている。2005年11月から2008年1月まで実施された10回のワークショップの概要や様子を紹介している。ワークショップの様子の記録と学習と効果、このワークショップが教材の開発に寄与した点などがまとめられている。また会場、参加者数（大人と子どもの数を分ける場合もある）、実施期間、使用言語、参加者の出身国、参加者の宗教、使用した方法が10の表でまとめられている。

<表3>

回	ワークショップのテーマ	開催場所	期間
1	倫理教育	スウェーデン (リディング)	2005年11月18～10日
2	移民と難民に関する	コロンビア (ボゴタ)	2005年12月5～8日
3	ユース GNRC を共に築く	スイス (ジュネーブ)	2006年7月13～15日
4	倫理教育	インド (コインバートル)	2006年8月2～5日
5	倫理教育	スペイン (サラマンカ)	2006年8月31～9月2日
6	倫理教育	日本 (京都)	2006年8月
7	共に平和を目指す旅	タンザニア (ダルエスサラーム)	2006年12月7～10日
8	難民と移民に関する	エクアドル (サンロレンソ)	2007年1月23～25日
9	若者の暴力に関する	エルサルバドル (サンサルバドル)	2007年11月1～5日
10	若者の暴力に関する	パナマ (カピラ)	2008年1月21～23日

その10回のワークショップのテーマと開催場所、期間を表3にまとめてみたが、倫理教育の推進を目指しているので、基本的に倫理教育が中心テーマになっている。表3の開催地や開催期間などをみると2008年1月以降のワークショップも含めても開催地や開催期間はまちまちである。

四つ目は、「子どものための祈りと行動の日」(World Day of Prayer and Action for Children: 以下 DPAC と記す) は、2008年5月に広島で開催された「子どものための宗教者ネットワーク (GNRC)」第3回フォーラムで発表された。DPAC は、毎年「世界の子どもの日」で、「国連子ども権利条約」が採択された11月20日に行われる。アメリカのニューヨーク事務所 (常駐スタッフ2人) がその役割を担当している。これがどのような目的でなされたものかは、「ありがとうインターナショナル」のホームページに記載された内容から知ることができる。その概要を示すと次のようになる。

DPAC は、子どもの高潔、権利、尊厳を守り、子どもの幸福を促すために宗教者や善意の人々を結集することを目指し、世界の宗教、信仰に基づいた団体、非宗教団体と子どもにふさわしい世界の構築にコミットしている善意の人々の間のパートナーシップによって可能となっている。DPAC は、世界各地において子どもの生存、成長、保護のための計測可能な行動と祈りを開催することを呼びかけている。その日、全世界のコミュニティや礼拝の場で、子どもたちの生存、発達、保護のための測定可能な行動とともに祈りの集いが行われる。す

すべての宗教団体と非宗教団体の善意ある人々が、ミレニアム開発目標といった子どものための国際的に合意された目標を達成すべく協力していくことを決意する機会を提供するもので、すべての子どもたちが人間としての可能性を最大限に引き出し成長できる世界という共通のビジョンを持つすべての人が連帯する日だという（英語版の公式サイトもある www.dayofprayerandaction.org）。

2009年から始まったDPACのイベントを以下の表4にまとめたが、2012年までのイベントについては「ありがとう基金」ホームページに表で記載があったものを参照したが（2012年10月時点）、2009年と2012年のテーマは空欄であって、現在はこの表自体が存在しない。当時記載されていたものに、ありがとうインターナショナル・ニューズレター「ありがとうnews」を参照して2014年までの情報を加えると、次のような表となる。

＜表4＞ 毎年開催されているDPACのイベント

年	参加国	イベント数	主要なテーマ
2009	22	29	拘留所における青少年一尊敬と威厳
2010	48	69	子どもの死亡率を下げる 母体の大切さ
2011	72	96	子どもに対する暴力をなくす（3年計画） ・積極的親業の推進・児童婚の禁止・全世界での出生登録
2012	54	100	貧困と闘い、子どもへの暴力を予防する手段として、出生届の権利の世界的促進を：“存在しない”子どもがいなくなるために
2013	51	96	100万人の子どもたちと共に立ち上がろう
2014	28	85	「インターネットに潜む危険から子どもたちを守るためには」 (記念シンポジウム 11月21日日本にて) *主要なテーマがわからなかったため、シンポジウムのテーマを参照

活動参加国数やイベント数などには若干の変動が見られる。イベント数は2012年がピークでその後減少傾向と言えるが、その理由はわからない。表4のように毎年主要なテーマとして掲げるものはあるが、「ありがとうnews」の記事内容を参照すると、毎年、イベントやシンポジウム、ワークショップによっては各国、それぞれ異なるテーマで行われていることがわかる。

五つ目は、「子どもの貧困をなくす諸宗教イニシアチブ」（貧困撲滅）である。2012年6月、GNRC第4回フォーラムで国連での約束の1つである貧困問題に取り組むことを打ち出した。貧困の原因と考えられている「質の悪い統治」「戦争と暴力」「不均衡な資源の分配」という3つの分野に焦点を当てて、世界規模のアドボカシーと草の根レベルの活動の両面から取り組んでいる²⁴。

2013年8月1日に、ケニアのナイロビに「ありがとうインターナショナル」のナイロビ事務所が新設され（常駐スタッフ7人）、GNRC事務局と「子どもの貧困をなくす諸宗教イニシアチブ」の拠点となった。8月19～20日にはナイロビ市内で「子どもの貧困をなくす諸宗教イニシアチブ」の第1回暫定運営委員会が開かれ、当イニシアチブが目指す目的の達成にあたって、次の3点を優先的テーマにすることが合意された。①貧困の精神的な根本原因（欲、無知、憎悪、恐れ）を軽減する。②宗教協力を通して貧困の構造的原因に立ち向かう。③GNRCやその他の宗教コミュニティによる持続可能な草の根活動を進めていく²⁵。

「ありがとう news」2014年秋号 vol.5 には、スリランカ・モラトゥフにおいて「貧困撲滅のための国際デー」にあたる年10月17日に「貧困撲滅のための情報センター」が設立されることと、1年間の活動を紹介している。ケニアの特別学校への支援とともに、井戸の建設、炊事場や浴室の補修作業、南アフリカの最大のスラムであるキベラスラムを訪問し、子どもたちへ学校用の靴を配布することなどである。また貧困問題への取り組みは始まったばかりで、各国の貧困実態の調査を行い、ユニセフや各国の政治、自治体、貧困撲滅のために活動している団体との協力関係を築き、早く貧困で苦しむ子どもたちがいなくなることを目標として活動をしていくとする。

六つ目の「啓発・広報」に関しては、「ありがとうインターナショナル」の活動を広く紹介するために次の3つのことを行っている。①「ありがとう news」の発行（年4回）、②ホームページやSNS（Facebook, Twitter など）を通じた情報提供、③マスコミ関係者との情報交換、記者懇談会、プレスリリースの発行などである。

「ありがとう基金」のホームページが開設されたのは2001年である。「ありがとう基金」の事業の説明などはあったが、当初は最新ニュースの更新などが頻繁に行われているとは言えない状態であった。しかし、2012年時点に閲覧したときは、最新ニュース欄の更新の頻度も多くなっていった。「ありがとうインターナショナル」になってからは、インターナショナルの名を付して改称したことに相応しく、国際化を意識しての多言語化も進んでいるホームページのリニューアルとともに活動ごとの公式サイトも設けている。また「ありがとう news」2015年春号 vol.7 には「ありがとうインターナショナル」のWebサイトが新しくなったとのお知らせがある。今後は「ありがとう news」の掲載や、ブログ、SNSを使った情報、世界の子どもたちの声などを配信する予定だという。これはインターネット時代、グローバル化時代に対応してのホームページの作成、更新に力を入れていることであり、「ありがとうインターナショナル」に改称した後、著しくみられる特徴である。

3. 「ありがとうインターナショナル」のネットワーク

「ありがとうインターナショナル」のホームページには、国連経済社会理事会（ECOSOC）の特殊協議資格と国連児童基金（ユニセフ）の諮問資格を有し、「子ども・権利・コネクト」（旧・子どもの権利条約のためのNGOグループ）および「子どもの権利情報ネットワーク（CRIN）」のメンバーとして、国連機関やその他のNGOと連携し、子どもと若者が直面する課題に取り組んでいる。「ありがとうインターナショナル」は、すべての子どもと若者のための公正かつ健全な社会環境づくりに向けて「国連子ども権利条約」の履行の達成を、大きな目標としていると明らかにしている。

「ありがとうインターナショナル」の国際化の特徴を確認するために、妙智會教団の年表などを参照し、これまでの国際的活動のみを表5にまとめた²⁶。

妙智會教団は、開教してから3年後の1953年5月19日に、新日本宗教団体連合会（新宗連）に加盟しており、この新宗連との親密な関係によって国内での宗教協力や様々な活動が始まった²⁷。その繋がりから外部の団体との関係も築き、対外的なネットワークも作ってきた。国際機関との繋がりも、1953年9月の世界佛教徒会議への参加が初めてである。70年の世界最大規模の諸宗教間対話組織の世界宗教者平和会議（WCRP）と関わったことからアジア宗教者平和会議（ACRP）に参加するなど、次第に国際機関との繋がりが増えていた。

<表5>

年	月日	活動
1953	9月30日	第2回世界佛教徒会議代表歓迎国民大会に参加 会主 代表として歓迎の辞を述べる（後樂園スタジアム）
1955	1月12日	佛舍利奉安第2回世界佛教徒会議が縁となり、ビルマ宗教大臣ウ・ウィン氏から佛舍利七粒を贈る
1963	9月14～10月24日	大導師 核兵器禁止宗教者平和使節団員として欧米各国歴訪
1965	2月3～21日	大導師 日本宗教者平和使節団員として中近東各国歴訪
1970	10月16日	第1回世界宗教者平和会議（WCRP）会主 榮譽顧問、 大導師 日本代表として出席（京都国際会議場）
1976	11月25～30日	第1回アジア宗教者平和会議（ACRP）に代表を派遣（シンガポール）
1979	8月28日～9月10日	大導師 第3回世界宗教者平和会議に日本代表として参加 （アメリカ・プリンストン）
1981	2月24日	大導師ローマ教皇ヨハネ・パウロⅡ世招待による「諸宗教代表者のつどい」出席 （駐日ローマ教皇庁大使館）
1982	6月22日～7月1日	大導師 第2回国連軍縮特別総会に新宗連平和特使団名誉団長として出席
1987	8月3日	大導師 比叡山宗教サミットにおいて「平和提言」
1990	3月27日	会主7回忌法要 国際的社會活動を宣明
	6月5日	ユニセフ（国連連合児童基金）学習会
	7月23～31日	子どものための世界宗教者会議に代表を派遣 （アメリカ・プリントン）
	9月11～17日	NGO 年次総会「安全な世界を子供たちに—90年代の課題に取り組む」に代表を派遣 （アメリカ・ニューヨーク）
	10月13日	「ありがとう基金」発足 開教40周年つどいにおいて（幕張メッセ）
	11月4日～10日	ネパール視察団を派遣この年よりユニセフのネパールバングラデシュの給水と衛生事業 に対して継続的援助が始まる
1991	2月28日	ユニセフ 湾岸戦争避難民救援基金に寄付
1992	4月7日	WCRP 環境と開発会議に代表を派遣（ブラジル・サンパウロ）
1992	11月22日	ソマリアの子どもたちへの緊急援助としてチャリティーコンサートとバザー開催し収益 金をユニセフに寄託
1993	8月30日	世界宗教者平和会議・ユニセフ主催「子どものための宗教者会議」に代表を派遣 （オーストラリア・メルボルン）
1994	11月1日	ユニセフ本部に代表を派遣 グラント事務局長と懇談 （アメリカ・ニューヨーク）
1995	5月14日	ユニセフ寄生虫治療プロジェクトに資金寄託
	6月2日	ユニセフ円卓会議に出席（国立オリンピック記念総合センター）
1996	4月23日	ユニセフ本部に代表を派遣 キャロル・ベラミー事務局長と懇談 （アメリカ・ニューヨーク）
1998	10月12日	ブータン、モザンビーク、ペルー、ヨルダン河西岸地区およびガザ地区の四ヶ国のユニ セフプロジェクトに援助をはじめ
1999	10月25～28日	大導師 ローマ教皇庁主催「諸宗教者の集い」に出席 代表25名を派遣 （イタリア・ローマ）
1999	11月21～24日	国連子どもの権利条約10周年を記念しての国際会議に代表を派遣 （イスラエル・ナザレ）
2001	5月12日	大導師にユニセフ本部キャロル・ベラミー事務局長から「感謝の盾」が贈られる
2002	5月8～10日	大導師「国連子ども特別総会」の席上、宗教NGOを代表して平和提言（ニューヨーク） 代表団38名を派遣
2002	6月1日	大導師にイタリア・フィレンツェ市から「平和賞」が贈られる
2003	2月	妙智會「ありがとう基金」が国連NGOに認定される （国連経済社会理事会の特殊協議資格を取得）
2007	5月14日	大導師にユニセフより「子どものための宗教指導者賞」パレスチナ政府より「エルサレ ムの星」が贈られる
2007	10月3日	宮本恵司理事長、藩基文国連事務総長、アシャ・ローズ・ミザロ副事務総長と会議 （ニューヨーク国連本部）

妙智會がもっと積極的に国際的活動に力を入れるようになったのは、1990年からである。表5から分かるように、1990年3月27日会主7回忌法要の際に国際的社会活動の宣明があって「ありがとう基金」が発足され、教団独自の活動も増えていく。対外的な活動を通して様々な団体とパートナーシップをとり、ネットワークを広げているが、「ありがとう基金」の設立後、国連連合児童基金（ユニセフ）との関わり²⁸が目立つようになった。その関係と活動は、「ありがとうインターナショナル」になっても続いている。国連のユニセフへの協力やメンバーとのネットワークの形成に力を入れてきたことは明らかである。

ユニセフとの活動に集中しており、ユニセフに特化している傾向といってもいい。「ありがとうインターナショナル」が国外に活動を広げ、国際的社会活動をする際に、ユニセフとの関係は、国外の人々には受け入れられやすい団体として認識される可能性がある。

むすびに

「ありがとう基金」から「ありがとうインターナショナル」への改称は、国際的な活動を目指すという意図が明確であり、実際にそのように変化している部分がある。

一般財団法人になってから目に見える変化としては、体制と活動の整備、情報発信面での国際化がある。「ありがとう基金」の理念や活動の内容に関してはほぼ一貫しているが、活動を進めていくうちに組織の体制と活動がより計画的かつ具体的に整えられていったことが分かる。情報発信面に力を入れたことは、ホームページが充実したことにかがえる。特に英語版を充実させたのは、海外向けの情報発信を意識しているということである。しかし、年4回発行の「ありがとう news」の配布が、教団支部に5部ずつしか配布されないということ、また関連団体とメディア関係者という限られた配布の仕方、まだネット上に公開されていないということは、情報発信面における課題と言える。つまり、国際化、グローバル化に合わせようとする姿勢は見えるが、そこでなされた活動を誰に発信するかという面で問題を残している。

「ありがとうインターナショナル」となり、GNRCと倫理教育の推進、DAPC、貧困撲滅、支援など、より組織化された活動が展開されたことで、パートナーシップをとって一緒に活動をする団体や、その活動を通して形成される大小の繋がりが深まったことは確認できる。

注

- 1 「グローバル化時代の到来と新宗教の展開—妙智會教団の事例—」駒沢大学宗教研究会『宗教学論集』第27輯、2008年3月。
- 2 宮本けいし理事長は、2012年の理事会において理事長交替を提案し、2013年6月5日の理事会で理事長交替が正式に承認された。理事長を10年務めたら教団運営は後進に譲り、“行”に専心し、妙智のみ教えを広めることに勇猛精進することを決めていたということで、理事長を退任し、「法嗣」として修行に専念する。法嗣とは、師のみ心とみ教えを受け継いだ人という意味（『妙智會』2013年7月1日、第749号）。
なお、「宮本けいし」と「宮本恵司」と二種類の表記があるが、「ありがとう基金」が一般財団法人「ありがとうインターナショナル」になった時より、「宮本恵司」に変わった。
- 3 『妙智會開教50年記念誌』（2000年10月、妙智會開教50年記念誌プロジェクト）。
- 4 『宮本文靖会長米寿記念 合掌』2005年1月妙智會教団奉賛会。
- 5 『宮本文靖会長米寿記念 合掌』2005年1月妙智會教団奉賛会。

- 6 「ありがとう news」は、会報の「妙智會」のように会員全員に配るというものではなく、教団の支部ごとに5部ずつ配布している。ありがとうインターナショナルの事務局にて過去の号も含めて入手可能である（「ありがとう news」2014年春号 vol.3）。一般財団法人になってからのニュースレターは会員向けというよりは、対外的、メディアへの広告用の役割が強いように見受けられる。
- 7 「ありがとうインターナショナル」のロゴには黄色の三つの花びらのようなモチーフが使われているが、これは宮本ミツ会主が最後に残した言葉である「心」という漢字をもとに、宮本恵司総裁がデザインしたものだ。「ありがとうインターナショナル」の根幹にある精神は慈しみと思いやりの心にあるという。またこのマークは、4つの活動「GNRC」、「倫理教育」、「子どものための祈りと行動」、「貧困撲滅」にも使われることになった（ありがとうインターナショナル・ニュースレター「ありがとう news」2015年春号 vol.7）。
- 8 現在は「イエメンにおける出生登録率向上プロジェクト」（2012年から3年計画）が進められている。
- 9 「ありがとうインターナショナル」は、2011年3月11日に起きた東日本大震災復興に向けての取り組みも実施している。東北大学が行っている「臨床宗教師」を育成する『実践宗教学寄附講座』に義援金の一部を寄託している。また「原子力行政を問い直す宗教者の会」が福島、宮城、岩手などの放射線量の高い地域の子どもたちを毎年北海道に招待する『北海道寺子屋合宿』にも2013年から支援を行っている（ありがとうインターナショナル・ニュースレター「ありがとう news」2014年夏号 vol.4 参照）。
- 10 「グローバル化時代の到来と新宗教の展開—妙智會教団の事例—」表二（『宗教学論集』第27輯、駒沢大学宗教研究会、2008年3月、52～55頁）。
- 11 「妙智會」1998年4月1日、580号、p.3 参照。
- 12 GNRCの英語版公式サイト <https://gnrc.net/en/> では、フランス語、スペイン語、ポルトガル語、アラビア語のものも閲覧できる。
- 13 ありがとうインターナショナル・ニュースレター「ありがとう news」2014年春号 vol.3 参照。
- 14 仏教タイムス 2000年6月1日付（第1945号）1頁参照。
- 15 <https://arigatouinternational.org/jp/what-we-do/gnrc> 参照。
- 16 『あまねく慈悲を～「ありがとう基金」の歩みと、タンザニアでGNRC第4回フォーラム』2012年10月、ありがとう基金。
- 17 仏教タイムス 2004年5月6日付（第2125号）2頁参照。
- 18 仏教タイムス 2008年5月29日付（第2310号）1頁参照。
- 19 『共に生きることを学ぶ—倫理教育のための異文化間— 諸宗教プログラム』（2008）のはじめに参照。
- 20 <https://arigatouinternational.org/jp/what-we-do/ethics-education-for-children>（英語版の公式サイト www.ethicseducationforchildren.org/en/ は英語、スペイン語、フランス語で閲覧できる）。
- 21 ありがとうインターナショナル・ニュースレター「ありがとう news」2014年冬号 vol.6 参照。
- 22 ありがとうインターナショナル・ニュースレター「ありがとう news」2013年秋号 vol.1 には12ヶ国語に訳されていると記載されているが、ホームページには「現在は、英語、フランス語、スペイン語、日本語、ペルシャ語、アラビア語、スワヒリ語、シンハラ語、ポルトガル語、9つの言語に訳されている」と記載されている。これは、クロアチア語、セルビア語、ボスニア語、ルーマニア語が増え、シンハラ語が無くなったということであろう。
- 23 ありがとうインターナショナル・ニュースレター「ありがとう news」2013年秋号 vol.1 参照。
- 24 ありがとうインターナショナル・ニュースレター「ありがとう news」2013年秋号 vol.1 参照。
- 25 ありがとうインターナショナル・ニュースレター「ありがとう news」2014年秋号 vol.5 参照。
- 26 『妙智會開教50年記念誌』（2000年10月、妙智會開教50年記念誌プロジェクト）の年表と「ありがとうインターナショナル」のホームページの教団のあゆみを参照した。
- 27 1961年11月26日の新日本宗教青年会全国連盟結成大会や1962年4月29日の戦没者慰霊祭などに参加するなど、新宗連の活動に積極的に参加している。

28 ユニセフとの関わりは、専門紙記事でも頻繁に紹介されている。以下、二つを紹介する。

- ・国連児童基金（ユニセフ）を通じて、国際的な紛争や自然災害などの際、子どもたちを支援してきた。「国連子ども特別総会」（2002年5月）で『倫理教育委員会』の設置を提言した（仏教タイムス2004年4月22・29合併号（第2124号）2頁参照）。
- ・GNRC（代表宮本けいし）とユニセフ（ファリダ・アリ氏）が共同事業の実施について調印し、GNRCが世界の主要10宗教の子ども観を調査することになった。調査は、子どもの問題に関して一般の組織やさまざまな宗教団体との協働をより一層進めることを目的に実施するもの。ユニセフとWCRPが専門家を特定する支援を与え、この事業の顧問も務める。調査内容は、当該宗教の教典などに子どもと子どもの権利がどのように記されているかというもの。調査対象となる宗教は、キリスト教、ヒンズー教、イスラム教（シーア派、スンニ派）、仏教、バハイ、ユダヤ教、ジナ教、シーク教、道教、土着信仰（仏教タイムス2004年5月27付（第2128号）3頁参照）。

國學院大學研究開発推進機構 日本文化研究所年報 第8号

平成27年9月30日 発行

発行者 井上順孝

編集担当 松本久史

塚田穂高

印刷所 株式会社 丸井工文社

発行所 國學院大學研究開発推進機構 日本文化研究所

東京都渋谷区東4丁目10番28号

郵便番号 150-8440

電話 03-5466-0162

FAX 03-5466-9237